

2024年度 附属幼稚園 学校経営計画

I 大学の第4期中期目標・中期計画（附属学校について）2022(R4)～2027(R9)年度

(A) 【附属学校園の取組】

1. それぞれの年齢段階に応じた特色ある教育モデルに関する研究・実践を行うとともに、社会貢献及び学校教育水準の高度化等に資するため、その成果を社会に発信する。

（I－4 教育研究の質の向上に関する事項【K19】）

2. 大学と附属学校園が緊密に連携する「オールお茶の水」体制のもとで、連携を推進するための体制や教育研究環境の整備を図りながら研究や取組を協働して進め、学生の実習や教員の研修を行うとともに、先導的な教育モデルや教材等の開発及びそれらの成果の発信を進める。

（I－4 教育研究の質の向上に関する事項【K19】）

(B) 【その他、大学の各機関と連携した取組】

1. 大学入学前からの総合知育成モデルの探究において大学と協働する。

（（前文）大学の基本的な目標3）

2. 大学と附属学校園が協同し、SDGs の達成を推進していくことができる高度人材の育成に取り組む。

（I－1 教育研究の質の向上に関する事項【K3】）

3. コンピテンシー育成を柱とする幼児期から大学卒業までの段階的教育モデルの開発・実践・発信においてコンピテンシー育成開発研究所と協働する。

（I－2 教育研究の質の向上に関する事項【K5】）

4. 理系人材育成プログラムの開発において理系女性育成啓発研究所と連携する。

（I－2 教育研究の質の向上に関する事項【K5】）

5. 今後発生が想定される自然災害に備え、大学とともにお茶の水女子大学防災計画の適切な運用を行う。

（X－4 安全管理に関する計画）

II 附属幼稚園の教育目標

子どもを「自ら育つもの」と捉え、次のような子どもへの願いをもち、幼児の心身の発達を助長する。

- ・自分のことを大切にする
- ・周りの人を大切にする
- ・環境を大切にする

III 附属幼稚園の経営方針

1 使命【ミッション】

- (1) 大学の附属幼稚園として、幼児教育の理論と実際に関する研究を行う。
- (2) 大学の附属幼稚園として、学生の実習と多様な研究協力の場を提供する。
- (3) 大学の附属幼稚園として、研究や保育の実際を公開し幼児教育の進歩向上に貢献する

2 展望【ビジョン】

- (1) 子どもへの願い（教育目標）を基盤に、教育課程、環境の見直しを進め、一人一人に応じた教育活動を推進し、それぞれの伸びる力を十分引き出し、個性豊かな育ちにつなげる。
- (2) 幼児教育に関する諸課題について、大学、関係諸機関、及び、いずみナーサリー、文京区立お茶の水女子大学こども園と3園が連携し、その改善に資する研究を実証的かつ先進的に行う。
- (3) 大学の総合知開発研究機構の一つであるコンピテンシー育成開発研究所と協力し、教育モデルの策定に寄与する。
- (4) 大学の教育実習やインターンシップ、授業の保育観察を受け入れるとともに、教科教育法等の授業を担当し、これからの幼児教育を担う意欲的で実践力のある教員及び実践研究者の養成に協力する。
- (5) 国内外の幼児教育行政関係者・教員・研究者の視察・参観や研修を積極的に受け入れると共に、公開保育研究協議会の開催を通して、本園の幼児教育の理念、実践と研究の成果を積極的に社会に発信し、教育関係者との交流を促進していく。

3 目標【ゴール】

- (1) 教育課程
 - 「子どもへの願い」を基盤に、教育課程を実践検証する。
 - 一人ひとりの個性を尊重し、豊かな育ちと関わりの深まりを保障する保育実践に取り組む。
- (2) 園運営
 - 園児、保護者の安全・安心な幼稚園生活を保障する。
 - 園と家庭と連携し、子どもの育ちを支える対話的な関係作りを構築する。
 - 地域とつながるネットワーク構築を目指し、開かれた幼稚園づくりを実験的、先導的に推進する。
 - 仕事の合理化を図り、働きやすい環境を維持する。
- (3) 大学・附属との連携
 - 教育実習や大学の授業担当、インターンシップの受け入れと共に、大総合知開発研究機構等大学研究組織との一層の連携を図る。
 - 文京区立お茶の水女子大学こども園・いずみナーサリーと協力し、乳幼児教育の研究を継続、発信する。
 - 附属小学校・中学校・高等学校とは連携研究に引き続き取り組む。
- (4) 社会貢献
 - 地域の乳幼児教育施設や小学校と研究会を行い、接続期や幼児教育についての意見・情報交換を行う。
 - 3園と大学が共同して行う子育て応援プロジェクト「のびのび子育てサロン」を継続して実施し、地域の乳幼児のいる家庭への支援を行う。
 - 本園の「主体的に考え行動する子どもを育てる」保育の発信を通じて、社会貢献を果たす。
 - 本園が所有する歴史的資料の整理と保管体制の充実を進め、研究者や諸機関への資料提供を行う。

4 経営計画【マネジメント・プラン】

- (1) 幼稚園経営重点課題
 - ① 教育課程

○教育課程を実践検証し、研究テーマ「『つくる』がうまれる暮らし 2年次」の視点から、子ども一人ひとりの豊かな育ちを保障する教育課程の編成をめざす。

② 幼稚園運営

○園舎内外の安全点検、衛生管理を徹底するとともに、安全・安心の考え方を保護者にわかりやすく示す。

○SDGsを意識し、古い物の良さや伝統を大事にしながら教育環境の改善につながるように、備品・環境等の補修・修繕、整備を計画的に実施する。

○子どもの実態や保護者の学校評価に照らし、各行事の在り方を検討精選し、実施後の評価を行う

○掲示版への記載、クラス懇談会、研究だより等を通して、遊びの中での幼児の育ちや本園の研究の内容について具体的にわかりやすく保護者に伝え理解を図る。掲示版やファイル等でのポートフォリオの意義を再考し、園と保護者双方向で子どもの育ちを支えていく。

○個人面談やホットモタイム、副園長との懇談など、保護者の思いや考えを知る機会を多様に設け、安心して子育てを行える環境を整備する。

○安否情報システム ANPIC のわかりやすい活用や、教員やスクールカウンセラーとの相談や懇談の機会を多様に設ける等、安心できる園生活を保障し、保護者との協力体制を強化していく。

○PTA つばみ会、教育後援会、同窓会とも連携して教育環境を整える。

○学校評議員会・学校関係者評価委員会を年2回実施し、そこで得た評価と自己評価を踏まえて保育や研究を進め、改善につなげる。

○園務分掌・事務・会計・施設等の管理体制を明確にし、担当者を中心に効率的な運営、安定した教育活動が行えるような体制を整える。

③ 大学との連携

○大学教員、人間発達教育科学研究所の協力を得て、園内研究会や公開保育、3園合同研究会を実施する。

○実習生やインターンシップ生の受け入れ、大学の講義担当及び調査協力を担う。

○コンピテンシー育成開発研究所連携研究員による積極的な研究促進を行い、大学と園全体とで共有しながら進める。

○幼稚園創設 150 周年を2年後にひかえ、大学と連携して、周年行事に向けての準備を進める。

④ 社会貢献

○公開保育を実施し、参加者とともに学び合う協議会を継続して実施し、評価を受ける。オンラインを活用して地域現職教員対象の保育公開等の機会を設け、地域とのつながりを目指す。

○英語版を含め研究成果をまとめた紀要を関係諸機関に配布するなど、広く発信する。ホームページの新たな活用を模索し、教材論文、研究等の発信については、評価を広く受ける。

○所有する幼児教育に関する歴史的な資料の整理を進めると同時に、資料公開及び研究者への協力をしていく。

○幼稚園、こども園などの幼児教育施設、保育学会等の教育研究団体とともに研究を深め、事例提案等で本園の実践研究を発信していく。また、指導講師として保育実践研究に協力していく。

○オンラインを活用し、海外向けに本園の保育理念や保育の実際を発信する。また国外幼児教育研修の積極的な受け入れや、グローバル協力センターとの連携を行う。

(2) 各学年の目標

3歳児学年 教師や友達に親しみ、安心して好きな遊びをみつける

4歳児学年 夢中になって遊ぶ中で、ものや人と関わる楽しさを味わう

5歳児学年 もの、ことに興味をもって関わり、友達とのやりとりを楽しみながら、遊びや生活をつくっていく

(3) 幼稚園各園務分掌の重点目標

① 教務

○担当者が変わっても引き継がれる体制を作り、改善を加えながら、園務分掌を遂行する。

○各分担の仕事内容の整理と明確化を進め、組織的な園運営の体制を実現し、働き方改革につなげる。

○保育の伝統を継承しつつ、前向きに新しい着想を取り入れる。教職員が連携して保育を進められるよう、情報を共有する機会を計画的に設定する。

○園行事の意義を共通理解し、充実を図ると共に、実施後の評価を行い翌年以降の行事計画に活かす。

○いずみナーサリー、お茶の水女子大学こども園との連携を含め、学内外の関係機関との連絡を密にし、地域との連携を図りながら園運営を進める。

② 危機管理

○危機管理マニュアルの内容を整備し、時代に合った更新を行う。

○予測困難な社会の変化にたくましく立ち向かう社会の担い手を育てるために、園児・保護者・教職員対象に様々な想定下の訓練を積み重ねる。

○大学と連携し、安全管理体制の見直しを行い、園としての備蓄品の整備・更新を進める。安否情報システム ANPIC の有効かつ安定した運用が進められるよう、マニュアルの共有を進めていく。

○安心・安全な園生活を送るために、計画的に環境整備や物品の購入を促進する。

○気候変動や緊急事態に対応した教育課程の柔軟な運営、行事の変更実施等を工夫し、園児の体験を保障する。

○教職員の情報セキュリティに対する意識を高め、情報管理体制の見直し、共有を行う。蓄積したデータを適切に管理する。

③ 研究

○『『つくる』がうまれる暮らし 2年次』を主題として研究を進め、その成果を紀要にまとめる。

○附属学校園の教材・論文データベースを活用して、研究の取り組みを発信したり、評価を受けたりして、双方向的な研究に生かしていく。

○いずみナーサリー、お茶の水女子大学こども園、附属小学校と連携し、入園前から小学校入学までの発達を見通して作成したカリキュラムを実施し、省察を進める。

○公開保育研究会において、研究発信に加え、参観者との対話に努め、幼児教育の質の向上に寄与する